

特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進について

長野県教育委員会事務局 学びの改革支援課

1

県教育委員会のこれまでの取組

- 全ての子どもが自分らしく学ぶことのできる授業づくり等にむけて、「子どもに応じた多様な学び方」、「合理的配慮」等を重視して取り組んできた。（～令和4年 信州型ユニバーサルデザイン）
- **認知や発達に特性を抱える子ども**を含む全ての子どもを包み込む学びの環境の構築を目指した。また、民間団体と連携した学校外の学びの場の整備を進めた。（令和5、6年 認知や発達の特性に応じた学びの充実実証事業）

課題

授業の内容が簡単で、学びの充実感が得られない等の理由により、学習や学校生活において困難を抱える子どもがいる。学校では、こうした子どもたちへの支援の必要性や、適切な支援方法等について、困り感を抱えている。

課題解決に向けて

- **一般社団法人Education Beyond（エデュケーション・ビヨンド）**と連携して、「学校外の学びの場と学校を包摂するプログラム（＝ Beyond School ビヨンド・スクール）」を開発し、困難を抱える子どもたちへの支援体制を構築し、困難の解消と才能の伸長を図るため本事業を実施
- 県内の公立小中学校を対象に、本事業の協力校を募集。申込前の説明会には20校をこえる学校が参加。1つの自治体と8つの学校が協力校に決定（総学校数12校）
- 協力校は、それぞれ本事業に関わる切実な課題感をもっている

【困難を抱える子どもの様子や学校の困り感（協力校へのヒアリングより）】

- 毎日登校し授業に参加しているものの、さらなる挑戦や深い探究を求めているため、現在の授業内容に物足りなさを感じている様子。
- 該当児童生徒が関心を持つ専門的または抽象的なテーマについて、同様の関心を共有し深く語り合える友人が身近にいないため、知的好奇心を満たす交流の場が限られており、学校だけでは学びが充実していない状況が伺える。
- 登校渋り、教室で行われる学習に参加したがない、欠席が続く等、不登校傾向で悩みを抱える学校が多い傾向。登校時にどこで学習をすればよいか子どもも先生も困っている。

- ① 児童生徒の学びたいことを支援できる チューターをマッチングします。
- ② チューターと一緒に、自分が興味をもったことやもっと深く学びたいことにトコトン挑戦します。
- ③ 学校外での学びの様子や成果を学校と共有し、学校生活の中でさらに児童生徒の可能性を伸ばすことに活かします。



「Beyond School」(ビヨンド・スクール)の概要

推進計画のイメージ

2

実証研究協力校

1自治体、8学校（学校数12）

伊那市立東部中学校
伊那市立春富中学校
池田町立会染小学校
上田市立浦里小学校
大町市立大町南小学校
小谷村立小谷小学校
佐久市立佐久平浅間小学校
佐久穂町立佐久穂小学校
軽井沢教育委員会
・軽井沢町立軽井沢中学校
・軽井沢町立軽井沢東部小学校
・軽井沢町立軽井沢中部小学校
・軽井沢町立軽井沢西部小学校

有識者

上越教育大学
・角谷 詩織 教授
信州大学
・高橋 知音 教授
・村松 浩幸 教授
・小倉 光明 助教

外部団体

一般社団法人Education Beyond
・小林 りん 氏
・尾原 香代子 氏

令和7年度

令和8年度

ステージ1

対象となる特定分野に
特異な才能のある児童生徒
の見いだし方

外部団体

県教育委員会

県内の学校を対象に特異な
才能のある児童生徒を見い
だす

対象児童生徒

実証研究協力校 の決定
見いだす際の観察する視点
や留意点等について研究

ステージ2

学校外で行われる
学習・支援プログラムの
成果と
育成を目指す資質・能力
との関連

対象児童生徒

学習・支援プログラムへ参加

外部団体

学習・支援プログラムの内容や
成果その成果について整理

県教育委員会

学習・支援プログラムの内容
やその成果と育成を目指す資
質・能力の関連について考察

ステージ3

対象となる児童生徒の
学校外での取組や
学習成果等を活かす
評価の在り方

県教育委員会

外部団体

実証研究協力校

「学校での評価」を幅広く
捉え、特定分野に特異な才
能のある児童生徒が学校外
での学びや活動を通じて得
た成果等を活かす評価の在
り方について検討

ステージ4

学校外で行われる
学習・支援プログラムの
学校の教育課程への
位置付け方

県教育委員会

外部団体

実証研究協力校

学校外で行われる学習・
支援プログラムの学校の
教育課程への位置付け方
について検討

運営委員会（有識者からの助言を参考に議論）

有識者

県教育委員会

外部団体

実証研究協力校